

## 2011 年度事業報告

### NPO 法人日印交流を盛り上げる会

昨年の3.11東日本大震災の支援をいち早く実行したインド、インド政府とタイアップして当NPOも震災支援をスタートしました。

4月に代表および半田監事（今年度より日本博物館協会専務理事）の2名は、震災被害の現地での調査（宮城県南相馬市から青森県久慈港までの博物館・美術館等を中心）。5月、インド人演歌歌手チャダとカラオケセットを持参しての避難所慰問。7月、日本への心の支援を目的とする ICCR 派遣オリッシー舞踊団6名の公演。9月～10月、日本最大級のインド・フェスティバル「ナマステ・インド 2011」を成功させる。ナマステの目玉一つのものである「インドフォークアートの広場」「大人と子供の遊び広場」「象の広場」にインドからアーティスト5名を招聘。その後砂のアーティストを除く4名のアーティストがミティラー美術館に滞在し、翌年のナマステ・インドのための制作をする。インド大使館、ICCRの協力を得て、インドベンガルの NGO Contact Base と協働して6名のバウルのミュージシャンの公演を実現。ナマステ、世界旅行博、ナマステ・インド in 刈谷、日本東京ベンガル協会のドウルガー・プージャ、横浜ディワリフェスティバル、などに参加。11月～12月には、国際交流基金の助成（300万）を得て、十日町の懐メログループのフルバンド演奏を伴いチャダを中心としたインド初、演歌と着物ショーを3公演（ニューデリー・グルガオン・チェンナイ）実現しました。2月、日印国交樹立60周年記念事業として派遣されたオリッシー舞踊団7名の全国公演。

2012年は日印国交樹立60周年の年で、代表はインド大使館のアドバイザーグループの一人として記念事業を推進することになりました。

#### ① 3.11 被害の実情を調査するために、代表と半田監事の現地入り。

（たばこ150万円相当の外国たばこを日本たばこアイメックス(株)、秋山産業(株)の協力を得て、現地で配布。大変喜ばれた。現在は喫煙者を取り巻く環境は厳しいものがあり、被災した人、支援する行政、ボランティア、警察官、自衛隊など危機的、ゆとりのない状況では、つらい思いをしている喫煙者が多かった。思いがけないプレゼントに喜ばれる方が大勢いました。)

#### ② インド人演歌歌手チャダの被災地慰問。

5/23 名取市民会館、七ヶ浜国際村 各300食のレトルトカレー、300人分のマサラ・チャイ（シヤティ紅茶提

供）。プロの歌手の訪問はマスコミを通していろいろと報告が



あった。チャダと話し、

一方的な歌のプレゼントではなく、歌を歌ってもらい、何かの癒しになればと考え、本格的なカラオケセットを持参。現地ボランティア、行政関係者からもとても良かったと、感謝される。被災者の何人かが涙を流しながら歌う姿を見て、少しでも心に背負ったものが軽くなればと祈る。

③インド ICCR 派遣 ランジャナ・ゴハールオリッシー舞踊公演 (6名、7/3-7/9)

新潟県には8,000人ちかい被災者が各地に滞在。群馬県千代田町もそのような方々があり、開催地では社会福祉協議会が中心となり、被災者の方々が来られるよう呼びかけていただいた。また、津南町では隣県の長野県栄村、隣の十日町市の長野北部県境地震の被災者の方々を招待する。津南公演にはインド大使ご夫妻、令嬢も参加する。



日時	内 容
7/4	十日町市/長安寺において公演
7/5	南魚沼市/市立浦佐認定こども園において公演
7/6	津南町文化センターで公演
7/7	群馬県千代田町民プラザにおいて公演
7/8	インド大使館 ICC で公演

④ 本間ケイ ICC 展(7/21-25 インド大使館 ICC) 協力

インド大使館のインド・カルチュラル・センター (ICC) のギャラリーは、2010年9月オープン以来ほとんど活用されてこなかった。6月にミティラー美術館展を開催(共催、ミティラー美術館/インド大使館)。7月にはインドを数次にわたって訪問し、インドの女性を描き続けてきた新潟の画家、本間ケイ氏の展覧会をNPOとしてプロデュース。これを契機に大使館ギャラリーもしばしば活用されるようになる。



⑤ トリパティー等書記官(文化・政治) 歓送会 (8/9)

インドと歴史的に縁のある新宿中村屋を会場とし、インド大使ご夫妻はじめ大使館の関係者も多数参加。100名を超える会となる。

⑥ インドフェスティバル・ナマステ・インディア2011

(9/24-9/25)

東京・代々木公園/共催: インド大使館、インド文化交流評議会(ICCR)、ナマステ・インディア実行委員会、NPO法人日印交流を盛り上げる会、インド政府観光局  
ナマステ・インディア2011は、天候にも恵まれ、2日間で19万人の人出で賑わった。



インド大使館より、インド国外ではロンドン、ニューヨークを超え、世界最大級のインド・フェスティバルと評価される。



ナマステで大好評だった象の広場、フォークアートの広場に参加したアーティストが1ヶ月ほどミティラー美術館に滞在し、翌年のための作品を制作。

アイヌ文化振興・研究推進機構の助成により、北海道二風谷から12名の平取アイヌ文化保存会が参加。豊かな日本の先住民文化を今年も披露。毎年積み重ねることでファンも多くなる。特に、大震災後経済優先の社会を見直そうという動きが日本国内で広がる中、自然との深い素朴なコミュニケーションを持つアイヌ文化に対する評価は高まっている。



⑦ バウル音楽グループ (6名、9/24~10/31)

インド大使館、ICCR の協力を得て、インドベンガルの NGO Contact Base と協働して 6 名のバウルのミュージシャンの公演を実現。このナディア地方のバウル・ファキールの来日は初めて。

バウルは、バングラデシュとインドの西ベンガルの農村部に暮らす吟遊詩人です。既成の慣習や宗教にとらわれないバウルの哲学、自由な精神の解放と神への帰依を歌で歌いあげています。ナマステ、世界旅行博、ナマステ・インディア in 刈谷、日本東京ベンガル協会のドウルガー・プージャ、横浜ディワリフェスティバル、他。



⑧ インド人演歌歌手チャダ+十日町懐メログループ (19名) によるインド国内3公演と着物ショー (11/26-29)

インドで初めてフルバンドによる本格的な演歌公演を実現。

- 11/26 ニューデリー
- 11/27 グルガオン
- 11/29 チェンナイ



⑨ 海士町産業フェスティバル(11/19)協力

昨年に続き、島根県隠岐の島海士町にインド文化を紹介。

参加、ヨガ/アチャーリヤ・アマン、バラタ・ナーティヤム/小久保シュヴァ、カタック/前田あつこ

⑩インド大使館における日印国交樹立 60 周年記念事業アドバイザー会議に出席 (1/16)  
代表が参加

⑪日印国交樹立 60 周年記念/インド ICCR 派遣 Kavita Dwibedi オリッシー舞踊公演 (2/17-22)  
(7名)

日時	内 容
2/18	静岡県沼津市・松陰寺において公演
2/20	新潟市万代市民会館で公演
2/21	インド大使館 ICC で公演



⑬日国交樹立 60 周年記念事業 Panchayavadyam 公演 (10名)

日時	内 容
3/11	スペース・オルタ (新横浜) 公演
3/12	インド大使館 ICC で公演

日国交樹立 60 周年記念事業 ICCR のインフォメーションは非常に遅い。1ヶ月前後のインフォメーションが殆ど。理由の一つは先行地韓国などのスケジュールが決まった後、他の国々の大使館に伝達するため。60周年記念事業を少しでも盛り上げようと、豪雪の今年行ったオリッシー公演(2月)は、除雪と公演を同時にしなければならなかったのは大変だった。それでも60周年記念事業を盛り上げようとこの Panchayavadyam 公演も同様に会場、滞在、宿泊、移動の手配、ポスター・ちらし制作等をこなし、準備したが、開催1週間前に、中止という決定が伝えられる。3月11日の公演を止めた理由は、大使館が外務省と話し合い、3月11日から1週間日本の国情を考え、催事を一切行わないことに決めたということだ。幻の公演となってしまった。国際文化交流の難しさを体験する出来事だった。

